

## 2013年 JAM スタディツアー

### ■ 日程・内容

- 8月4日(日) 朝 08:00 バンコク スワンナプーム空港集合  
08:30 バンコク発 メソトへ移動  
夜 メソト着 Hotel チェックイン
- 8月5日(月) 午前 メータオクリニック訪問  
JAM 現地スタッフとともに、クリニックの内部を見学  
シンシア医師に国境のクリニックの現状について伺います。  
シンシア医師との座談会  
シンシア医師に国境のクリニックの現状について伺います。  
午後 国境の橋訪問・マーケット見学  
タイとビルマの国境に架かる橋へご案内します。向こう岸のビルマの様子もご覧いただけます。
- 8月6日(火) 午前 移民学校 Hope School の見学  
JAM の支援している移民学校を訪問します。  
午後 ワークショップ  
JAM の小林潤代表による国際保健の入門ワークショップ
- 8月7日(木) 終日 難民キャンプ訪問  
日本が難民として受け入れたカレン民族の住んでいるキャンプです。
- 8月8日(水) 午前 移民学校の学校保健セレモニー参加  
JAM では、2008 年から、ビルマ人移民学校の学校保健状況評価表彰を行っており、このセレモニーに参加します。生徒による催し物が用意されています。  
午後 ビルマ・マーケットでのお買い物、メソト市内観光、自由時間
- 8月9日(金) 朝 メソト発  
夕方 19:00 バンコク着 解散

2013年スタディツアーに参加して 【東京事務局 白壁 彩】

今年の夏、学生生活最後の夏休みにスタディツアーに参加し、国境の街メソットを初めて訪れて、特に感じたことをお話しさせていただきたいと思います。今回のスタディツアーでは、主にメータオ・クリニック、難民キャンプ、移民学校、ゴミ山などを訪れました。初めてメータオ・クリニックに足を運んだ際、スタッフの皆さんや患者さんが会う度に温かく挨拶をしてくださったことが印象的で、どこか懐かしい気持ちになりました。メータオ・

クリニックを訪れて感じたことは、患者さん、そしてスタッフの皆さんにとって毎日が命と向き合い、葛藤の日々であるということでした。資金不足により、助かる命を優先せざるを得ない状況。死が近づいている人々まで支援が行き届くことが困難な現状。過酷な状況の中、スタッフの方々が、本当は皆を助けたいという思いを持ちながら、限られた資源の中で目の前にいる患者さんと真摯に向き合う姿に、心を打たれました。また、Hope school で出会った子どもたちと過ごした時間は忘れられません。カメラを向けられたときに無邪気に笑う子、どこか寂しげな表情の子。厳しい環境で育ってきた子どもたちの背景を想像すると、胸が苦しくなりますが、少しでも彼らが笑顔でいられる瞬間が増えることを、願わずにはいませんでした。今回は約一週間の滞在であり、現地で生活する人々のごく一部しか見ていないため、より多くの時間を現地の人々と共に過ごすことでまた見方が変わってくるのではないかと思います。全てを理解しようとするのは難しいけれど、何ができるか考え続けること、現地で生活する人々を思い続けることはできるのではないかと実感した1週間でした。私は、来年の4月から、看護師としての一步を踏み出します。現地で生活する方々、大学の実習で出会った患者さんから、生きること、死ぬことについて様々なことを教えていただきました。臨床では、病いとともに生き、命と向き合う患者さんがいる現場で働くこととなりますが、一人一人の患者さんとの関わりを大切に、自分なりの看護観、死生観を深めていきたいです。学生生活最後の夏に、メーソットを訪れることができ、将来の選択肢が広がったことは大きな収穫でした。現地で出会った方々との写真は宝物で、手帳に挟んで御守りのようにいつも持ち歩いています。これからも、今まで出会った方々、これから出会う方々のご縁に感謝し、またいつか現地で生活する人々や子どもたちと再会できる日を楽しみに、夢に向かって日々精進していきたいと思っています。